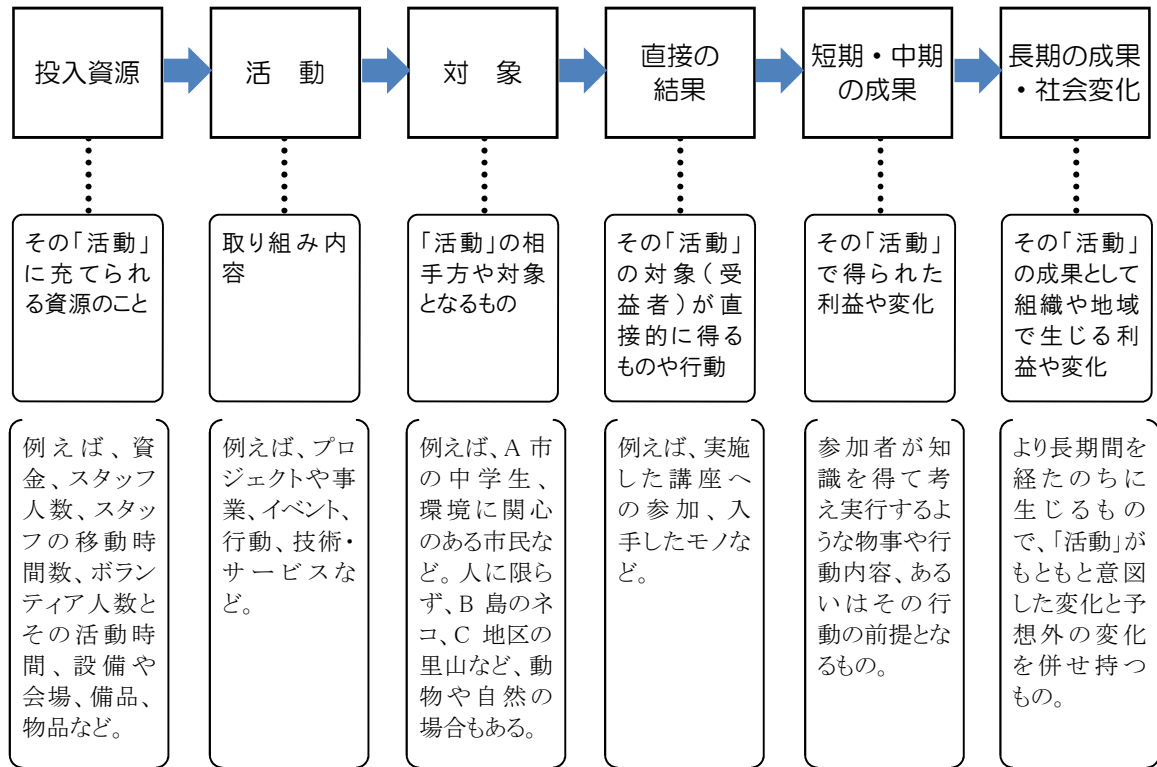


### 事業評価の考え方



(出典) 松本美穂 (2007) 『相手がうなずく「立案力」！NPOのためのロジックモデル・ワークブック』後房雄監修, 特定非営利活動法人市民フォーラム 21・NPOセンター。

「アウトプット」→事業を実施することによって直接発生した成果物・事業量。

「アウトカム」→施策・事業の実施により発生する効果・成果。

例)

目的：交通安全を推進しよう

活動：横断歩道の設置

アウトプット：横断歩道を年度内に 500m設置する

アウトカム：交通事故件数が減少する

## Arts Council England (2014) での類型

### ■ Intrinsic benefit (内在的効果)

- Intrinsic benefit (本質的、固有な、内在的/便益)は、芸術・文化の体験による、美学的喜び等といった私的・個人的な効果であり、こうした個人への便益は、“Instrumental impact”としてスピルオーバー(波及)する。しかし、芸術文化の価値について議論する際、いかに芸術文化が我々の内面的生活を照らし、感情的世界を豊かにするかといった、Intrinsic な効果から始めるべきであるとしている。ただし、レビューでは、以下の instrumental impact (貢献効果)のみを対象としている。

### ■ Education (教育的(効果))

- 演劇や図書館活動に参加することは、識字能力における学習到達を高める。
- 構造化された音楽活動に参加することは、数学、早期の言語能力及び読み書き能力獲得における学習到達を高める。
- 米国においてカリキュラムを通じて芸術活動を統合している学校は、類似しているが統合していない学校に比べて、読解と数学の平均得点が高かった。
- 構造化された芸術活動に参加することは、認知能力を高める。
- 学校で芸術活動に参加した低所得世帯の学生は、参加しなかった低所得世帯の学生に比べて、学位を得る可能性が3倍高い。

### ■ Economy (経済的(効果))

- 英国の芸術文化産業は、2011年において124億ポンドの総売上を生み出している。出版、実演芸術、芸術的創造といったサブ・カテゴリーにおける芸術文化の生産活動は、最も大きな貢献をしており、英国経済の総付加価値のうち、59億円と推計されている。
- 芸術文化産業は、フルタイム換算で、英国において平均で110,600人の雇用を生み出している。これは、英国の雇用全体のうち、0.45%である。
- 芸術文化産業で支払われる各1ポンドの給与について、間接的な副次波及効果を通じて、より広い経済に対して追加的な2.01ポンドの波及効果がある。
- 2011年には、文化芸術への参加に関連するインバウドの訪問が1,000万人あった。これは、英国への全訪問の32%であり、その消費額は英国への観光に関連する全消費額の42%である。
- 英国は、文化全般において、50カ国のうち4番目に位置付けられている。これは、現代文化(音楽、映画、文学)を保有していることによる。
- 芸術文化が地域経済を振興させる方法は5つある(①訪問者の誘致、②雇用創出及び技能開発、③企業の誘致・維持、④地域活性化、⑤才能の開発)。
- 商業的に資金提供されている芸術文化セクターと、公的に資金提供されている芸術文化セクターとのスピルオーバー効果をみると、両者間での人材の移動は多い。また、人材移動は一方方向ではなく、商業セクターと公的セクターを双方向であり、両方で同時に仕事する場合も含めて、潜在的に複数回移動している。

## ■ Society（社会的（効果））

- 学校で芸術に参加した高校生は、参加していない高校生に比べて、2倍ボランティアに活動しやすい傾向にある。
- 学校で芸術科目を専攻した学生の雇用される能力は高く、継続雇用の可能性も高い。
- 文化やスポーツのボランティア実践者は、平均に比べて、より地域コミュニティに参加し影響力を発揮している。
- 芸術への参加は、コミュニティの結束、社会的排除や孤立の削減、コミュニティをより安全で強いと感じられるものにすることに貢献し得る。

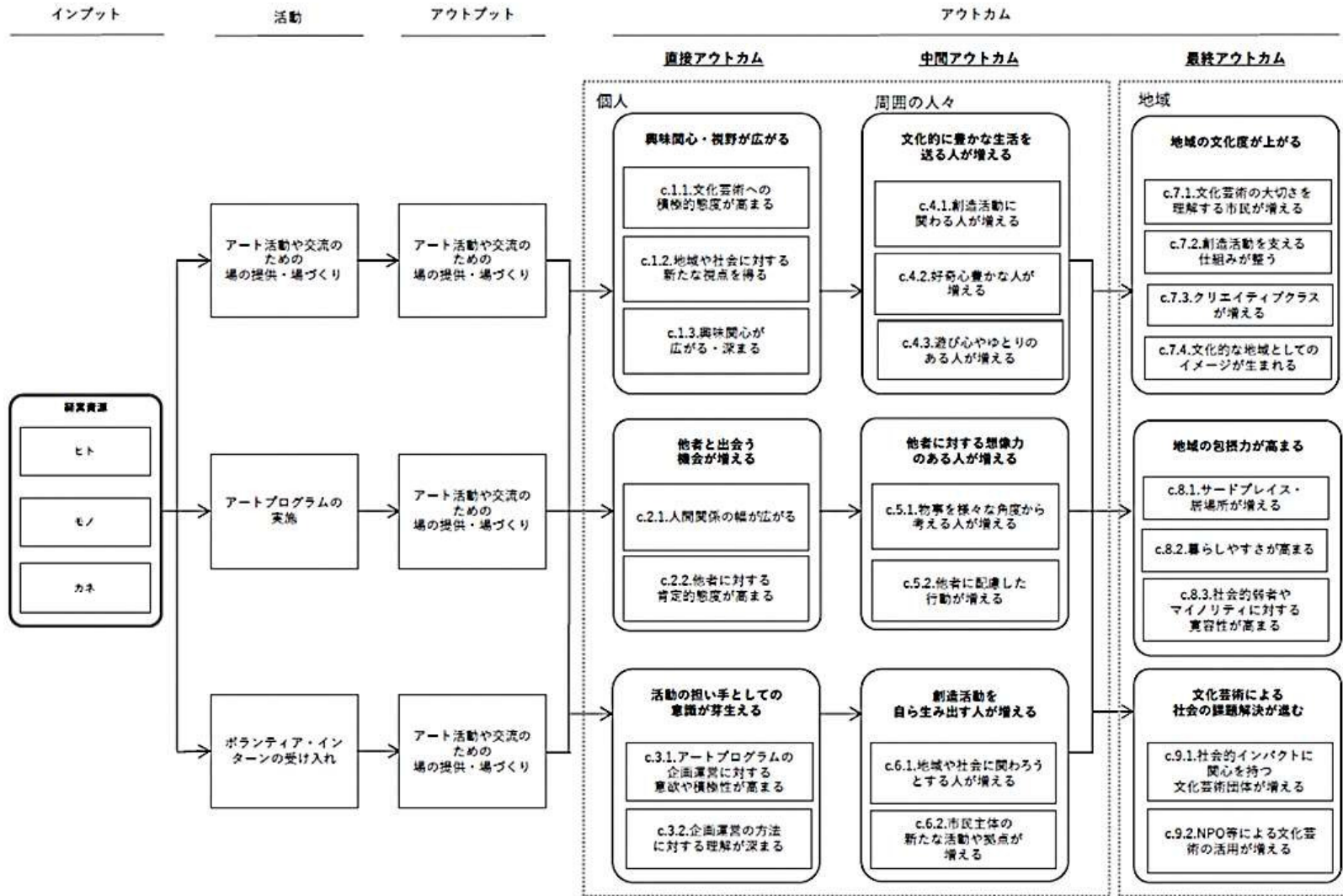
## ■ Health and wellbeing（健康・福祉的（効果））

- 12か月以内に文化施設・イベントに参加した人は、そうでない人に比べて、よい健康状態であると回答する割合が60%高く、また劇場に行った人は、よい健康状態であると回答する割合が25%高かった。
- 人々は、芸術を視聴することについて年間1人あたり2,000ポンドの価値を、芸術に参加することについて年間1人あたり1,500ポンドの価値を置いている。またスポーツに参加することの価値は、1,500ポンドである。
- 研究結果から、芸術文化に触れる頻度と、主観的幸福感は相関しているというエビデンスが得られている。
- 構造化された芸術文化活動に従事することは、子供や若年者の認知能力を向上させる。
- 数多くの研究が、芸術文化を応用した介入による認知症・鬱病・パーキンソン病の特定症状への影響を発見している。
- 芸術の活用が、ソーシャルケア対象者に創造への関心を継続させるだけでなく、ソーシャルケアの措置を促進させる効果がある。本レビューでは、ダンスが、ソーシャルケア対象者の孤独感・鬱・不安の軽減に対して効果がある点に着目している。

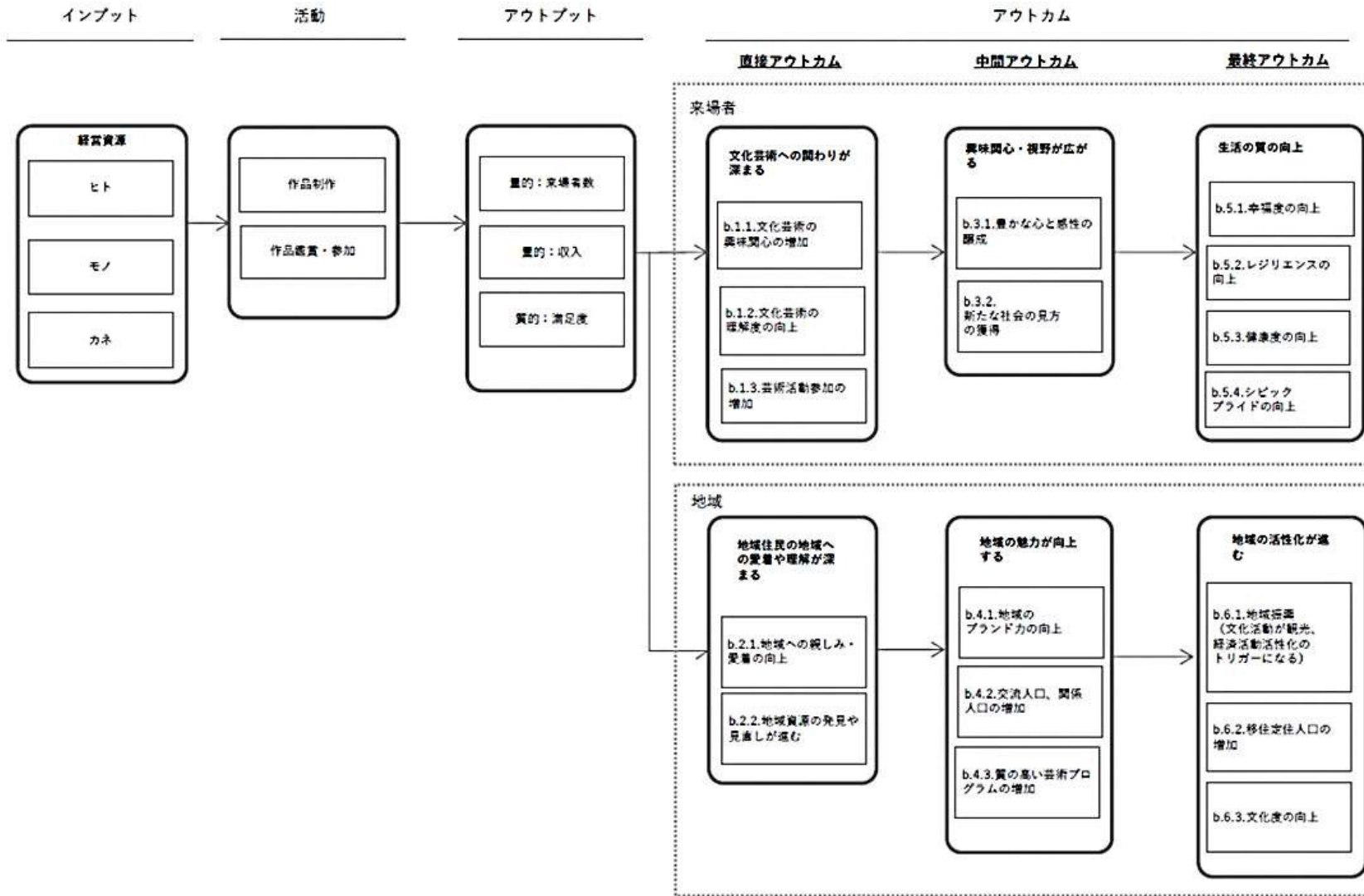
（出典）Arts Council England (2014) "The Value of Arts and Culture People and Society an evidence review"

# 社会的インパクト評価ツールセット（文化芸術）で示されているロジックモデル

コミュニティ事業型の場合：個人⇒周囲の人々⇒地域と影響の範囲が徐々に拡大している。



イベント事業型の場合：来場者と地域に分けて、アウトカムを整理している。



(出典) G8 社会的インパクト投資タスクフォース国内諮問委員会 社会的インパクト評価ワーキング・グループ (2016) 「社会的インパクト評価ツールセット (文化芸術)」

G8 社会的インパクト投資タスクフォース国内諮問委員会(<http://impactinvestment.jp/about/>)